

3 学期始業式講話

おはようございます。

冬休みもあっという間に終わってしまいました。

今年 2023 年、令和 5 年、兎年を迎えましたが、何か 1 つ目標を作れたでしょうか。いつも言っている 3 つのこと、授業を大切にすること、人を大切にすること、たくさん失敗をすること…、この中で 2 番目のことについては前回 2 学期の終業式でお話をしました。

今日は 3 つ目のことについて話をします。失敗をすることは探究学習の上では大変大切なことで、失敗なくして探究することはできないからです。ところがその失敗を恐れるがために、挑戦することをせず躊躇してしまう人がいます。これでは探究にもなりません。

それは失敗することで気持ちが落ち込み、心が折れてしまうからです。ちょっとした失敗で心が折れてしまう人にとっては、失敗はできるかぎりしたくないのもわからないでもないです。失敗をのりこえられることと失敗をかわせること、この 2 つができるといいのではないかと思います。

失敗を乗り越える力、これをレジリエンスと言いますが、抵抗力とでもいいですか、これを持つことは大事なことです。その典型的な人物としてロシアのプチャーチン提督がおります。ペリーが有名になってしまい、その陰に隠れがちですが、幕末に日本に来た彼は失敗というより困難にもめげなかった人です。ペリーより遅れてしまったのはクリミア戦争があったからで、今日ロシアがウクライナ侵攻をしています、以前ロシアが奪ったクリミア半島を戦場として、当時ロシアはイギリスやフランスと戦っていました。その影響でプチャーチンの船はイギリス船やフランス船に出会うと、拿捕、つまり乗っ取られてしまうために、慎重に日本に来ざるをえなかったのです。いざ日本に来てもなかなか交渉できず、ペリーが日米和親条約を結んだ後に、下田で交渉をします。ところがその最中に安政東海地震に見舞われます。

あの 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災とほぼ同レベルの巨大地震が発生し、プチャーチンの船は大被害を受けました。プチャーチンはそれならば修理を行おうということになり、イギリス船やフランス船に見えない所を選んで修理をしようということで、戸田という港に向かいます。ところがその船、ディアナ号はこの富士の宮島沖で沈没してしまいます。500 人のロシア人を乗せておりましたので、彼らは宮島の海岸に避難します。そこに宮島の人たちが焚火をして温めてくれました。皆さんのご先祖様かもしれません。今もロシアでは宮島の方々に感謝しています。

それで 500 人のロシア人たちは沼津の千本浜を歩き、大瀬崎から戸田に向かいます。プチャーチンはここでも諦めず、小型船の設計図を頼りに、今度は船を造ることにしました。本当にめげない方です。その傍ら、日露和親条約の調印を行い、船の完成を待って母国に帰っていきました。困難にぶつかる度に次のことを考えて行動することは、失敗しても挑戦することとよく似ています。たいていこうしたレジリエンスを身につける努力をするよう、教員

はとかく言ってしまいますが、なかなか難しいことだと思います。

それならば失敗をかわせることはできないかということです。これは気持の持ちようで、「なんとかなるら」「まあいいか」ぐらいの気持があると、失敗の繰り返しでも先に進めるような気がします。先生方によっては不謹慎に聞こえる言葉かもしれませんが、失敗におびえるなら心のどこかにあってもいい言葉のように思えます。いつも三振ばかりしてしまう人、いつもゴールをはずしてしまう人、こんな人にはいいかもしれません。

私自身も蚤の心臓で、高校時代にテニスのスマッシュ練習の時に20本連続して入らないと2キロぐらいランニングをするわけですが、いつも18、19本目ぐらいでミスをしてしまうんですね。試合でマッチポイントを握ったサービスでダブルフォルトをしてしまったりとか…、こんな時に「なんとかなるら」「まあいいか」ぐらいの気持が持てることでリラックスすることをいつしか覚えたように思います。

大学入試直前の生徒によく言ったのは「たかが」と「されど」という言葉で、気の弱い生徒には「たかが受験」と言い、いい加減な生徒には「されど受験」と言い換えていました。これから共通テスト受験が心配でたまらない人には「たかが受験」ということですね。ちょっとした言葉の使い方人間の気持は変わるものです。

さて、結びに3年生にとって今年は新たな世界に入ります。2年生は進路決定が迫られます。1年生は勉強に部活動に本腰を入れる年です。そうした中で何か1つ目標を作って欲しいと思います。その目標に向かって今年1年進んでいきましょう。

以上で、校長講話とします。

(令和5年1月6日、始業式)